

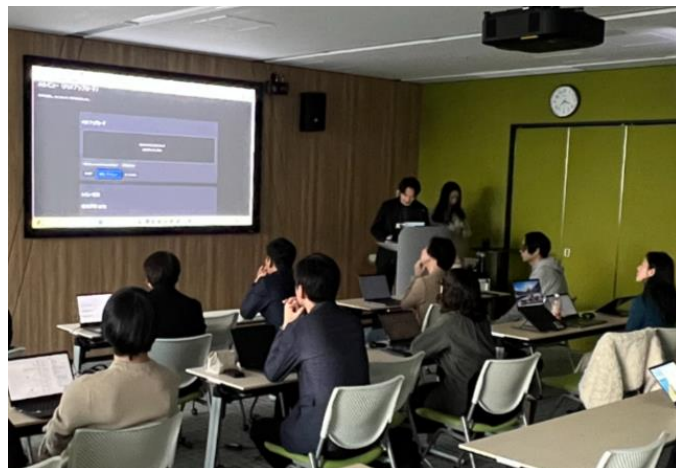
Frontline Report

1カ月で“AIと共につくる”をやり切った — 金融AIコミュニティ・ハッカソンレポート

12月19日(金)、Google Japan渋谷オフィスにて、CTC・金融AIコミュニティがGoogle Cloud社と開催した生成AIハッカソンの成果発表会を実施した。本ハッカソンは、金融事業グループ内の有志メンバーが「普段の業務で効率化したいこと」をコンセプトに、アイデア検討から開発、発表までを1カ月で走り切った取り組みである。タイトなスケジュールの中、参加者は課題整理、テーマ決定、実装、発表までを進め、短期間とは思えないクオリティの成果を揃えた。

今回の特徴は、単に“AIを使ったプロダクトを作る”のではなく、企画・実装・表現のあらゆる工程でAIの力を借り、品質とスピードを同時に引き上げた点にある。テーマ検討段階ではLowCode社のサポートも受けながら課題と価値を磨き込み、開発フェーズではGoogle Cloudエンジニアによるハンズオン研修で得た学びを即座に実装へ反映した。発表コンテンツ制作においても生成AIを活用し、動画や音楽まで自作するなど“伝わる表現”にも踏み込み、まさに「AIと共に創り上げる」プロセスを体現した1カ月となった。

発表会当日は3つのアイデアが発表され、いずれも現場の困りごとを起点に、業務の動線を作り替えるアプローチが揃った。発表された作品は、①プロジェクトの報告作業における「集める・まとめる・伝える」を効率化するAIツール【Project Quest】、②OutlookやTocarなど複数チャ



ネルに散在する情報を束ね、ユーザごとに最適化して返す統合AIアシスタント【Tascal】、③複数の専門家AIによる“第三者の目”で提案書の品質を引き上げる仕組み【Third A-Eye】である。いずれも「現場で実際に使われる姿」が想像できる、実務寄りのテーマ設定であった。

これらアイデアの中で、各審査員の評価スコア合算値の差が“ゼロコンマ”という大接戦を制して最優秀賞に選ばれたのは、複数専門家AIによるレビューで提案書をワンランクアップさせる「Third A-Eye(サード・エーアイ)」である。審査員会からは「実務性(あったら嬉しい、助かる)」への共感性が決め手だったとのコメントがあった。なお、審査員は、加藤浩平氏(Google Cloud Japan社)、勝山公雄氏(VCD合同会社)、青木晃一氏(LowCode社)、阿部健太郎氏(CTC・金融NEXT営業本部)の4名が務めた。

今回のハッカソンで得られたものは、個別の作品だけではない。限られた時間で仮説を立て、動くモノに落とし込み、外部の知見も取り込みながら磨き上げる——そのプロセスを体得できたこと自体が最大の成果である。本イベントを通じて、AIを使って短距離で形にする共通言語が育まれ、次の挑戦へとつながる関係性も生まれた。金融AIコミュニティとしては、こうした実践の機会を引き続き提供し、挑戦が循環する場づくりを進めていく予定である。



プロジェクト管理が“RPG”に化した日— ドット絵とBGMでチームの士気爆上がり



金融開発第3部

矢幅 健司 さん

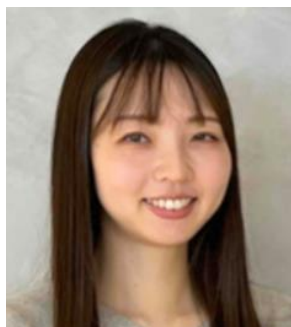
「面白そう」。その勢いだけで生成AIハッカソンに参加しました。しばらくプログラミングから離れていた私にとって、「未経験歓迎」の一言は大きな後押しで

した。最初は金融SEっぽい、堅めの業務課題を解く案を考えていたのですが、チームメンバーが「RPG風にしよう」とワクワクを足してくれた瞬間、空気が一変。AIでドット絵やBGMを生成して世界観を立ち上げると、完成イメージが鮮やかに共有され、チームの士気が爆上がりしました。

技術面で驚いたのは、Vertex AI StudioやGeminiを使った“Vibe Coding”です。言葉で指示するだけで、やりたいことが次々と形になり、「実装はAI任せでここまで進められるのか」と実感。苦労したプロンプトづくりも、「AIが欲しいプロンプトをAIに聞きながら作る」ことで突破。チームの認識齟齬も、データの流れを図解して共有することで乗り越え、前に進んでいきました。

今はプライベートでAntiGravityを使い、コンテキスト駆動型開発にも挑戦中です。メンバーとの横のつながりも生まれ、一緒に別のハッカソンに出ることも決めました。業界が激変する今、AIに意識的に触れて動向を体感的に掴む第一歩として、皆さんもぜひ参加してみてください！

技術コンペの場に“営業の私”が立った日— 生成AIハッカソンで掴んだ“発想の型”



金融NEXT企画部

佐藤 杏有莉 さん

身近なエンジニアチームがハッカソンで受賞などしている姿を見て、「楽しそうだな」と思ったのが参加のきっかけでした。

チームでは、営業視点でのアイ

デア出しや資料作成を担当しました。議論の場で出た論点を整理し、価値の言語化や見せ方に落とし込む役回りです。面白かったのは、チーム内の会話だけでなくGeminiとも対話を重ねることで、アイデアが“それっぽい思いつき”から“筋の通った提案”に磨かれていったことでした。

一番悩んだのはテーマ選びです。現場の切実な課題に刺さるものから、事務効率化のように広く効きそうなものまで、形にしたい案が次々出てきて、絞り切れずに悩みました。方向性が決まってからは、チームの動きが一気に揃い、役割分担も自然に定まり、スムーズに前へ進めました。

AIを活用してアイデアを“形”にする経験をしたことで、便利さを知るだけでなく、何をAIに任せ、どこを人が握るべきかを体感できました。他チームの発表も刺激的で、同じ制約の中でも発想や組み立て方でアウトプットがここまで変わるのかと驚きました。ハッカソンは、技術の活用や発想の広げ方を“短期間で濃く”学べる貴重な機会です。新しい発見を目指して、ぜひ飛び込んでみてください！



無限の未来と、幾千のテクノロジーをつなぐ。

CTC Financial Services Group



CTC金融事業グループの最新情報は
オウンドメディアサイトへ！

<https://financial.ctc-g.co.jp/>



お問い合わせ

CTC
Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ
金融事業グループ金融NEXT企画部

✉ fsgnext-biz-dev@ctc-g.co.jp